

～誰もが安心して暮らせる学校や社会をめざして～

10月18日(火)5・6限、毎日新聞 論説委員 兼「点字毎日」記者の佐木 理人(さき あやと)さんに、『『見えない・見えにくい世界』もおもしろい』というテーマで講演いただきました。

佐木さんは、講演のはじめの自己紹介で「小学校に通っていた時は目が少し見えていたが、中学生の頃に目がほとんど見えなくなった」と話されました。その後、佐木さんは、親元を離れて一人でやってみたいという願いのもと、高校は東京の盲学校に進学し点字や白い杖(つえ)の使い方を習い、さらに神戸の大学で英語の文法を学び、2005年から点字毎日で働いているとのことでした。

自己紹介のあと、駅で電車とぶつかる事故にあって大けがをしたこと、現在の点字毎日で仕事のことをくわしく話されました。最後に、「自分は一人じゃないと感じてほしい」「いろんな人の思いや行動で社会は少しずつ良くなっていく」と話されました。

みなさんの“ふりかえりシート”を紹介します。

職員室前に点字毎日の新聞などを展示しています！



《みなさんのふりかえりシートより》

*自分の想像以上に大変だったと聞いた。目が見えないので電車にぶつかり、何個も骨が折れたりしたこともあるらしい。そのような事にならないように、これ以上先は危険だよなどの声かけをしたいと思った。でも、大変なことだけではなく、アニメ鑑賞や家族がいたりなどの楽しみもあると言っていた。一番印象に残っているのは、頑張りすぎなくていいけど、ふんばってと言っていた。ふんばっていたら、誰かが助けてくれたり、むくわれることもあるから、これから大変なことに会ってもふんばろうと思いました。

*小学校のころは目が見えにくかったけども見えていて、中学生になって目が見えなくなったら、自分だったら怖くて歩けないなと思ったけど、周りの人に助けてもらったら安心して学校に行けるなと思いました。学校に行くのに1時間かかるのに、毎日お母さんが送ってくれたり、むかえに来てくれたりしてくれるお母さんもとてもやさしいなと思った。電車とぶつかって大けがをした話を聞いて、周りの人も言ってくれたり、さくがあったらケガをしなくてすんだのになと思いました。それでも裁判を起こしてさくがついたのもすごいなと思ったし、目が見えにくい人、見えにくい人にもとてもやさしいなと思いました。

*私は目が見えていない人の話を聞いて、たくさんを感じました。私は目が見えない人は、歩くことや文字を書くことさえ大変だと知って、目が見えていてとてもありがたいと思いました。でも、目が見えないからといって、いやなことばかりあるわけではないし、周りの人たちの力を借って生活することができることが分かりました。あらためて、誰の人の力を借りずに一人で生活するのが難しく、助け合うことが大切だと感じました。だから、目が見えない人や、他にも困っていている人がいたら、頑張っ
て声をかけようと思いました。印象に残った話は、自分が1人だと思わないでほしいと言っていたことです。だから、部活や勉強でうまくいかなかったり、なかなかできないことがあっても、ふんばって最後まであきらめずに続けることが大切だと感じました。また、困っている人がいたら、話しかけて、その人の力になれば良いなあと思いました。



*電車にぶつかって大けがをして、その時はそこにいた人達に一言も声をかけてもらえなくて悲しかったと言っていたので、もし、電車に目の不自由な人がいたら話しかけたり、危ないと思ったら「危ないですよ」と一言かけたりしたい。何も人の役にも立っていないのに死にたくないというのを聞いて、自分も共感して、人の役に立つまで死にたくないと思った。点字毎日の新聞を見て、1枚1枚ていねいに作っていてすごかった。点字の本を作るのは、本当に簡単ではないんだと思った。

*見えない・見えにくい人はいっぱいいると思うし、周りの人が少し考えるだけで防げる事故もたくさんあると思うから、目の見えない人がいたら「何か手伝うことはありますか？」と声をかけてあげようと思う。辛いことがたくさんあったと思うけど、がんばり過ぎるのもよくないけど、あきらめるのもちがうから、ふんばることをしようと思う。いきなり見えなくなることってすごい怖いと思うけど、今がんばって生活していることがすごいと思う。いきなり今、自分の目が見えなくなったらと思うとすごく怖いし、普段のように生活できなくなって立ち直れなくなってしまうと思う。

*今日、佐木さんの話を聞いて、目が見えなくなっても電車とぶつかって大けがをしても前向きに頑張っている佐木さんのことをすごいなあ、自分も佐木さんみたいな人になりたいなあと思いました。あと、町で白い杖を使っている人がいたら「何かできることはありますか？」と声をかけようとも思いました。今日はありがとうございました。

*駅で事故にあったりしても、その経験を生かし、裁判を起こし、他の人たちのために行動できるなんてすごいなと思い、私もそのような行動ができる人になりたいと思いました。急に目が見えない世界になってしまったのに、東京の盲学校に入っていろいろなことを学んでいて、とても向上心がある方なんだなと思いました。これを機に、私も点字ブロックや白い杖、点字などについて調べてみて、もし外で見かけたりしたときには、自分から話しかけて少しでも役に立てたいなと思いました。今日はお話していただきありがとうございました。

*佐木さんのお話を聞いて、いろんなことを学び、感じたことがありました。小学校に通っていた時には目が少し見えていたけど、中学校の時にはほとんど見えなくなったとおっしゃっていて、目が見えなくなったとき、どうやって気持ちの整理をしたのかなと思いました。中学生までは家族に支えてもらっていたけど自分でやろうと、佐木さんは「できないことが多くなったけど、できるようにになりたい」という思いで、高校では東京の盲学校に行って、大学もいろんなことに挑戦して行ってすごいと思いました。駅で事故があったとき、もうすぐで命が危なかったと聞いて、私だったら外に出るのにも勇気があるなと思いました。また、駅での事故で裁判を起こしたと聞いて、すごく勇気があるなと思いました。ほかの駅でも事故があってからドアなどが設置されており、なぜ、事故が起きてからドアを設置するか不思議に思いました。私はお話を聞いて、事故が起こる前に「危険だからここにドアを設置しよう」や、白杖を持っている人がいて困ってそうだったら話しかけるなど、みんなが安心・安全な世の中になっていったらいいなと思います。私も白杖を持っている人などが困ってそうだったら話しかけてみようと思います。



*目が見えないということはすごく大変だと思った。目が見えない分、事故に多くあったり、困ることも多いし、本当に大変なんだなと思った。電車の事故を聞いて、しっかりさくを作ったりすることが大事だと思った。もし、目の見えない人がいたら、しっかり声をかけてあげようと思った。そのような事をできる人が増えたら、もっと事故が減ると思うし、困る人も減ると思う。だから、まず自分がしっかり心がけようと思った。自分のことや周りの友達のことだけでなく、目の見えない人のことも考えようと思った。

*目がまったく見えないのはすごく不便だと感じました。ぼくは小学校のとき視力がDになって、教室の前から4列目くらいになると黒板の文字がぼやけて、5列目からは何が書かれているかまったく分からなくなっていました。少しでも見えるぼくでもここまでたいへんなのに、まったく見えない佐木さんがたいへんじゃないわけがないと思いました。ぼくらにできることは、少しでも佐木さんのような人を楽にできるように、サポートすることだと思いました。

*目の見えない人は、いろんな物にぶつかったり、事故にあったり、大変だということが分かりました。佐木さんの話を聞いて、いろんな人たちを助けて支えられる人になれたらと思いました。自分から動けるようにがんばろうと思います。点字毎日は初めて知りましたが、佐木さんの話を聞いて知れたので良かったです。点字毎日を作るまでに色んな工夫がされていてすごかったです。目の見えない人が暮らしやすいような世界になるよう、一人ひとりの行動が大切だと思ったので、自分のできることを精一杯がんばっていきたいと思いました。お話してくださってありがとうございました。

*目が見えないのは、元々たいへんってことは分かっていたけど、今日話を聞いて、本当にたいへんなんだとあらためて思いました。安心して信号とかわたってもらえるように、そういう人がいたら、いっしょにわたりましょうか？と言える人になりたいです。アニメが好きなのは、私もいっしょなんだなと思いました。目が見えない人のための点字の新聞とかあるんだなと初めて知りました。

*今日はお話していただきありがとうございました。目の見えない方は、人に助けられて不自由がなくて毎日楽しいと思っていました。でも、不安なことがあるんだと思いました。佐木さんはアニメが好きと言っていました、アニメのイラストや映像と違って、どういったふうに感じられるのかが気になります。点字を覚えるのがたいへんだなと思いました。

*小さい頃は片方の目はじゃっかん見えていたとしても遠近感がわかりづらいのは辛いと思いました。そして、母親が1回いっしょに死のうとしたけど、結局、車の免許とって通学させてくれたのはやっぱり良いお母さんだったんだろうなと思いました。電車とぶつかってあとギリギリのところ助かったのは本当に良かったとも思いました。でも、助かったとしても骨が折れたり、何十針もぬったのは、やっぱり楽ではないだろうなと思いました。目が見えないのは大変で辛いことも多いと思うけど、奥さんもいて子どももいて、助けてくれる周りの人たちもいて楽しく過ごしていることは、すてきなことだと思いました。

*目が見えない人は、点字や白杖を使うことは知っていたけど、その人たちのために点字毎日という新聞があることは初めて知りました。電車とぶつかった事故の話を知ると、目の前で見ていた人たちは人の命に関わることなのに、なんで声をかけなかったんだとうと思ったし、誰かが声をかけてくれていれば、佐木さんはけがをしていなかったかもしれないと思いました。だから、自分は点字ブロックの上で立ち止まったり、荷物を置いたりするのは絶対にしないようにしようと思いました。そして、白杖を持っている人が困っていたり、危ないときは、頑張って声をかけたなと思いました。

*小学校のころは、目が少し見えていたと言っていたから、生まれた時は目が見えていたのかなと思った。点字ブロックがあったら、そこを見える人が通るのはやめようと思った。目が見えなくても、点字毎日で仕事していてすごかったです。電車とかでぶつかって事故が起きないように、白い杖を持っている人がいたら話しかけようと思いました。佐木さんが言っていたように「自分は一人じゃない」と感じようと思いました。目が見えなくても食べ物の味は変わらないから良かったです。もし、佐木さんに会ったら話しかけたいと思いました。私は英語が苦手だけど、佐木さんは英語を勉強していてすごいと思った。

